

レッスン 7 細長い灰色の部屋とそこで行われた奇跡

その部屋は初めに 57 年前、私が神経学者として開業していた時に用意されました。部屋は安全であるように作られました。幅は 30 フィートで、長さは 60 フィート以上でした。(幅 9 メートル、長さ 18 メートル以上) すべての窓を覆い、ホールには着替え部屋に続くドアが 1 つあります。着替え部屋は女性用 1 と男性用が 1 つずつあり、他の 2 つの部屋にはそれぞれ、女性看護師と男性看護師がいます。ホールのドアは 1 つだけです。内壁はやわらかな灰色で、天井も灰色でした。明かりはすべて、すりガラスの後ろに隠されました。部屋の床には、縫い合わされたマットレスが敷かれ、その上には、やわらかな灰色のカーペットが敷かれていました。部屋には椅子やソファ、インテリアも含めて、家具類は何一つありません。

患者には、色々な人がいました。慢性的な神経性の病気、足や腕の麻痺・・・、すべてが内的な緊張や適応障害によるもの、または強いストレスから生じた病気で、一般的には不治とみなされている人達です。まず着替え室に向かいます。そして灰色の部屋に入って身にまとっていたシーツを取り、ドアが閉められます。彼は 1 時間の間、誰にも邪魔されずに、1 人で残ります。

やわらかな光、グレイの壁と天井、マットレスの床に敷いたグレイのカーペット、やわらかなマットレスの床に座る以外、何もしません。彼は、” なにか ” したくなるまで、待ちます。私からの指示は、次のようなものでした。

何かが頭に浮かんでも浮かばなくても、一向に気にしなくて構いません。ただ、待ちなさい。あなたに動きの衝動が感じられるまで！そして、その衝動に応じなさい。しかし、動きがどのようなものであっても、それに意思の介入や、特別な意味付けをしないように。動くように駆り立てられた衝動のままに、体を動かしてください。あなたの魂は体の状態をよく知っています。自分がどう動くべきかを誰よりもよく知っているのです。最初から、その結果はとても信じられないものでした。さらに驚いたのは、患者からのその後のレポートでした。

患者以外には誰一人としてその動作も感覚も知りません。ある人は足が半麻痺状態でしたが、毎 1 時間ずつの最初の 3 回は、全く動作が

ありませんでした。4度目に、右の肩をひねり始めたのです。彼は、普通の人が肩を動かすよりずっと奇妙な方法でひねったと言いました。その後彼は、胴と背中の中を動かすようになりました。捻り、くるくる回転してボールのように転がり、それから再びまっすぐに体を伸ばしました。その部屋にいるときにはいつも、違った動作が起こりました。そのような動作をしようと思った訳ではありません。彼は単に動作を促す衝動を待っていたのです。時々、左足を動かしました。しかし、何週間という間、麻痺した右足を動かすような衝動はありませんでした。

それから7週間目に、11年間かつてなかったほどに、彼は右足が動く事に気がつきました。その後4ヶ月もすると、彼の足は完全な活動を取り戻しました。反対側の足と同様に強さも回復したのです。多くの例を紹介する必要はないと思います。しかし、ここで強調したいのは、全く同じ方法、同じ形の動きは、2つとないということです。何故なら、魂は無限であり、それぞれの人達の抑圧による結果はみんな違っているからです。

肉体の無意識からの解放 より